

【参考】フェイスシート（素案）課題に係る取組状況

1 地域医療提供体制の推進に係る課題について

① 医療機能分化

実施主体	内容
保健所	・埼玉県東部地域保健医療・地域医療構想協議会において地域で充足が必要な医療機能について協議・意見交換を行った。（開催日 第1回令和2年11月19日 第2回令和3年3月1日（書面開催））

② 災害医療

実施主体	内容
越谷市医師会	越谷市災害対策マニュアルに基づいた有事の際の医療提供のあり方について継続的に検討している。市設置の医療救護所への医療班派遣準備の体制構築を図っている。また、医療救護活動に必要なトリアージに関するスキルアップ研修を会員医師のみならず、市保健師や医療機関勤務看護師、薬剤師会にも受講対象を拡げ災害医療への理解と医療班への参加協力に対する意識啓発に取り組んでいる。他地域への応援要請に応えるべく、Jmat活動にも取り組みを強化した。
吉川松伏医師会	・災害医療委員会を設置して、定期的に災害時の医療救護体制の構築についての検討、医師会としてのトリアージ訓練を実施していたが、コロナ禍の中ということがあって、活動は行っていない。
三郷市医師会	防災医療対策協議会の一員として大規模災害時に備えた防災医療体制の充実化を図り、トリアージ訓練や化学災害対策訓練を毎年実施していたが、現況を鑑み実施されなかった為、来年度以降の状況に応じて実施を検討する。
越谷市歯科医師会	有事において歯科医師会が何ができるかを常に考え行政が中心となり関係機関と協働し迅速な対応とれるよう協議していくことが重要です。
春日部市薬剤師会	春日部市災害時用備蓄医薬品を14薬局で循環備蓄し、発災時に医療救護所に提供する体制を整えている。災害時医療救護訓練に参加した。
獨協医科大学埼玉医療センター	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、規模を縮小した形で令和2年11月18日に災害対策訓練を実施した。 また、災害対策委員会を実施し、令和3年度中に災害対策マニュアルの改定を行う予定。
草加市立病院	令和2年11月、夜間想定の大規模災害被災者患者の受け入れ及び対応訓練を実施。 BCP委員会を立ち上げ改正に向けて活動中。
春日部市	【健康課】 5師会等との連携により、大規模災害発生を想定した医療救護訓練（参集及び通信訓練）の実施・・・令和2年11月15日（日）春日部市立東中学校、58人参加。
草加市	・医療救護所に診察用パーテーション及び診察用ベッドを配備した。
八潮市	・県主催の大規模災害時対応研修に参加した。
三郷市	・医師会、歯科医師会、薬剤師会、接骨師会へ三郷市総合防災訓練への参加を依頼し、訓練内容について協議を行った。 （※三郷市総合防災訓練は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止）
草加保健所	・例年、草加保健所地域災害保健医療調整会議を実施している。（令和2年度はコロナ対応で実施できず。）
春日部保健所	・広域的な健康危機管理体制構築のため、5保健所（春日部、草加、加須、幸手、越谷市）合同の健康危機管理想定訓練及び研修を実施している。 ・災害時の保健医療体制確保に必要な事項を協議するため、令和元年度に「埼玉県東部（北）保健医療圏地域災害保健医療調整会議」を設置した。

③ 救急医療

実施主体	内 容
越谷市 医師会	<ul style="list-style-type: none"> ・越谷市が公設公営設置している夜間急患診療所において、小児科専門医をはじめ医療スタッフを派遣し、初期救急に対応している。越谷市立病院や獨協埼玉医療センター小児科との後方連携による二次救急にも対応している。 ・当会ホームページ上にある「医療機関検索」を、より分かり易く、より使い易くなるようバージョンアップし公開している。また、夜間急患診療所を利用した患者保護者に対して、「かかりつけ医」の重要性と子どもの健康について丁寧に説明し対応している。
吉川松伏 医師会	<ul style="list-style-type: none"> ・小児時間外診療事業として、14医療機関に於いて、平日午後7時から10時まで当番制で実施した。(吉川10医療機関、松伏4医療機関) ・令和2年度は、240日を実施した。また、受診者数は181件、電話相談42件であった。また、二次救急へ18件を紹介した。 ・市、町と連携し、小児時間外診療事業の実施医療機関等のリーフレットを作成し、住民配布をした。 ・医師会ホームページにおいて、小児時間外診療事業の実施医療機関の情報を公開した。 ・夏季・年末年始の医療機関の診療状況についてもホームページにおいて公開した。
草加八潮 医師会	<ul style="list-style-type: none"> ・草加市子ども急病夜間クリニック、八潮市休日診療に医師等を派遣するなど、積極的に関わり対応した。 <p>実績値 草加市子ども急病夜間クリニック 1,731人/年 八潮市休日診療所 233人/年 ※いずれも新型コロナウイルスの影響を受け、前年より減少している。</p>
三郷市 医師会	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜、祝日の休日診療所の運営、平日夜間の輪番制による小児時間外(初期救急)診療及び土曜日夜間の休日診療所を利用したの同診療体制の実施。 ・市及び医師会ホームページでの小児救急医療に関する案内。
越谷市 歯科医師会	<p>二次医療機関に紹介状が必要な外傷等の口腔外科領域は、越谷市において病院歯科がありません。また口腔がん等の入院が必要な歯科医療は、近隣の草加市立病院、春日部市立医療センターの歯科口腔外科と連携し医療体制の充実を図っています。</p>
春日部市 薬剤師会	<ul style="list-style-type: none"> ・小児救急夜間診療所への薬剤師派遣、休日当番医に合わせ休日当番薬局を輪番制で開局した。 ・小児救急夜間診療所、休日当番医、休日当番薬局の運用状況の案内、かかりつけ医を持つことを啓発した。
春日部市	<p>【健康課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅当番医制による祝休日の初期救急・・・1日につき3か所(内・外・小児)実施。72日開所、受診者数1,812人(小児のみ)。 ・平日夜間の小児初期救急・・・春日部市小児救急夜間診療所の開所(年末年始を除く)。243日開所、受診者数281人。 ・東部南地区(6市1町)による小児二次救急・・・6医療機関により夜間365日+祝休日昼間72日実施。救急搬送人員数2,003人。 ・広報9月号において、小児救急夜間診療所、休日に実施している在宅当番医、二次救急医療及び適切な受診方法について周知。 ・市広報、公式ホームページ等により、「埼玉県救急医療相談」の周知。
草加市	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間及び休日の子どもの応急的な初期診療を行うため、「子ども急病夜間クリニック」を運営し、365日診療の対応をした。令和2年度クリニック利用者数 1731名 ・広報やホームページを通じて、急な病気やけがへの対処方法として、埼玉県救急電話相談についての情報提供を行った。
越谷市	<ul style="list-style-type: none"> ・休日当番医制事業(休日、年末年始)を実施した。 ・越谷市夜間急患診療所において、小児科の診療を毎日実施した。 令和2年度 受診者数 1,041人 ・埼玉県東部南地区の構成市町と連携し、小児救急医療支援事業を実施した。また、越谷市立病院も輪番制病院として参加した。 ・広報誌やホームページ等を活用し、埼玉県救急電話相談(#7119)や夜間急患診療所の情報提供を実施した。
八潮市	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜、祝日、振替休日及び年末年始に初期救急診療(休日診療所)を実施した ・市の広報誌やホームページに埼玉県小児救急電話相談(#7119)や休日・夜間診療所の案内等を掲載し、情報提供を行うとともに適切な受診方法の普及啓発に努めた。

三郷市	<ul style="list-style-type: none"> ・小児時間外（初期救急）診療事業を当番医療機関で実施した。253人（月～土曜日の19時～21時まで実施） ・休日、日曜夜間診療を医師会立休日診療所で実施した。663人（日曜・祝日・休日及び年末年始の昼間は10時～12時と14時～16時、日曜の夜間は18時～21時） ・埼玉県東部南地区の構成市町（6市1町）と連携し、第二次救急小児救急医療支援事業を実施。 ・埼玉県救急電話相談（#7119）や埼玉県小児救急電話相談（#8000）と、小児時間外（初期救急）診療体制について、当市発行「健康のしおり」（全戸配布）やホームページに掲載し、情報提供を行うとともに、適切な受診方法の普及啓発に努めた。
吉川市	<ul style="list-style-type: none"> ・小児時間外（初期救急）診療を松伏町と連携し、吉川松伏医師会の協力のもと実施。14医療機関（吉川10医療機関、松伏4医療機関）平日午後7時から10時まで当番制で実施した。 ・埼玉県東部南地区第二次救急医療対策協議会において小児救急医療支援事業を実施。 ・案内配布やポスター掲示などにより埼玉県救急電話相談（#7119）を周知。 ・ホームページおよび広報誌へ掲載
松伏町	<ul style="list-style-type: none"> ・小児時間外（初期救急）診療を吉川市と提携し、吉川・松伏医師会の協力を得て実施した。 ・埼玉県東部南地区の構成市町（6市1町）と連携し、小児救急医療支援事業（二次救急）を実施した。 ・小児時間外（初期救急）診療当番表を作成し、3月及び9月に全世帯に配布するとともに、広報誌やホームページ等に当番表を掲載した。 ・小児救急電話相談（#8000）を広報誌やホームページ等に掲載し、適切な受診方法の啓発に努めた。
春日部保健所	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県東部南地区第二次救急医療対策協議会に参加し、状況の確認、意見交換を行った。 ・急な病気やけがに対する県民の不安解消と軽症患者の集中による救急医療機関の負担軽減のため、埼玉県救急電話相談（#7119）に係るPRカードの配布。

④ 在宅医療

実施主体	内容
越谷市医師会	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域包括ケア推進のための在宅医療提供体制充実支援事業」8つのうち、「関係市区町村の連携」以外の7つの項目を実施している。また、越谷市ケース検討会議参加医師のコーディネートを行うなど、多職種連携推進のハブの役割を担う組織として連携推進の構築に腐心する毎日である。 ・「医療・介護の連携拠点運営委員会」を開催中。拠点運営に係る協議を行っている。出席者は、越谷市役所、越谷市医師会在宅医療担当役員および医師、拠点職員。また、越谷市地域包括ケア推進課との毎月の会合実施。コーディネータースタッフも増やした。 ・医療連携に係る窓口相談受付業務。多職種からの相談内容をまとめた「医療と介護の連携窓口便り」を毎月発行し関係機関・団体へ配布。地域が抱える課題解決のため情報を共有している。ホームページは行政、事業所にもリンクできるようにした。窓口図書室を始めて希望者に貸し出しをしている。MCS積極活用の推進活動も行っている。 ・越谷市内医療機関へ向け、各関係機関との情報共有について状況調査を行った。越谷市内訪問看護ステーション、ケアマネージャーへ向けアンケートも実施。集計結果を分析し、委員会等協議内容への参考としたり、市内病院への出張講座実施時の発表資料にも活用している。また、「医療と介護連携の会・世話人会」を2か月に1回開催。越谷市における多職種各団体代表者が一堂に会し、地域包括ケア推進のための意見交換や体制の構築に深く関与した協議会となっている。県内の横断的な繋がりを目的にMCSで県内拠点グループを作った。「越谷市地域緩和ケア連携委員会」は緩和ケアの連携に向けて立ち上げた。介護職にも医療の視点を、医療職にも新しい学びができるよう「医療的視点を補うための疾患の理解とチェックポイント」をシリーズで開催。ACP普及のために意思決定を考えられるよう市役所と一緒に市民向け講座も企画した。コロナ禍の為研修会等はWeb開催を行った。

吉川松伏医師会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 往診医の紹介など在宅医療に関わる相談業務を行った。 ・ 在宅療養支援支援ベッドの確保、調整を行った。 ・ 「医療機関連絡窓口の情報一覧」を作成・更新した。 ・ 医療・介護従事者向けコミュニケーション研修をオンライン開催した。 ・ 吉川松伏在宅緩和ケア地域推進委員会を開催した。 ・ 平成30年度より市町の受託事業により、平日9時～17時、コーディネーター（看護師、介護支援専門員）、2名体制で運営している。 ・ 在宅医療、介護連携に関わる相談業務・往診、訪問診療医、患者登録支援業務・在宅療養支援ベッド確保業務・在宅療養に関わる普及啓発業務・多職種間や在宅医療への理解を促進するため、各専門職の技術向上や多職種の連携につながる研修の開催などを計画、実施している。 ・ 医療、介護従事者より電話、FAX等にて相談を受けている。令和2年度の相談件数は、115件であった。 ・ 医療、介護などに関わる情報提供は、ケアマネ会などにて配布、郵送、FAX、市町で管理している情報公開システム（ケア倶楽部）に掲載した。 ・ サポートセンターの拠点通信、MCSで情報提供・情報の共有をしている。 ・ 市町のケアマネ会に定期的に参加。 ・ 埼玉県拠点が主催する埼玉県在宅医療連携協議会の実行委員として参加。
草加八潮医師会	<p>本医師会に在宅医療委員会を組織し、会員間、各事業所等への情報提供や意思疎通、連携を図るとともに、草加市、八潮市との各種事業実施への協力を行った。</p> <p>草加市、八潮市からの委託を受けている「在宅医療サポートセンター」事業を運営し、市民からの医療に関しての各種相談、地域包括支援センターをはじめとした介護関連事業所との調整を行った。</p> <p>埼玉県、草加市、八潮市、各団体等が実施する講演会や研修会、会議等に積極的に参加、出席することで、情報共有、相談体制の充実に務めた。</p> <p>※マンパワーも限られており、ニーズに応えるべく活動範囲を拡大すれば拡大するほど、業務多忙になり時間調整が困難になるという厳しい現実がある。</p> <p>埼玉県、草加市、八潮市、各団体との横断的なつながりを堅持しようとする、時間的に厳しくなる。『顔の見える関係』を維持、構築することが肝要である。</p>
三郷市医師会	<p>在宅医療・介護連携サポートセンターによる医療・介護連携の推進。</p> <p>在宅医療・介護連携サポートセンターによる後方支援ベッド体制等の充実化。</p> <p>在宅医療・介護連携サポートセンターによる多職種連携に主眼を置いた研修会等の定期的な開催による支援体制の強化。</p> <p>在宅医療・介護連携サポートセンターによる関係機関との調整。</p>
越谷市 歯科医師会	<p>「越谷市地区在宅歯科医療推進窓口」「越谷市の地域包括支援センター」「越谷市医療と介護の連携の会」と連携し、情報を共有し顔の見える関係を築くことを歯科医療従事者に周知しました。在宅医療において、看取り、ターミナルケア等に歯科医療がどの様に関わっていくか検討していきます。</p> <p>越谷市地区在宅歯科医療推進窓口を軸に、他職種団体と密に連携を図り情報を共有しています。</p> <p>また、情報共有の評価が必要と思われ検討していきます。</p> <p>越谷市地区在宅歯科医療推進窓口を軸に、困難事例等情報共有し課題解決にとり組んでいます。在宅歯科健診・在宅歯科訪問診療の申し込み書を作成し、関係団体へお配りし情報を共有しています。</p> <p>平成23年度から地域包括支援センターとの交流会を継続して実施し、下記取り組みを行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 認知症、独居、引きこもり、貧困等を対象に、見守りチェックシートの活用 - 連携シート（歯科医師会～地域包括支援センター間）の活用による見守り体制の構築
春日部市 薬剤師会	<p>地域連携薬局としての機能を充実させた。</p> <p>地域ケア会議に参加し地域連携薬局の充実を図った。</p> <p>ICTを活用し、多職種との情報共有、連絡を図った。</p> <p>春日部市在宅サービス多職種連携協議会の研修会に参加した。</p>
獨協医科大学埼玉医療センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 越谷市入退院支援ルール作成に参画し、円滑な入退院に資する仕組みづくりを進めた。 令和2年11月2日／令和2年12月2日／令和3年1月28日 ・ 従来医療保険の被保険者のみを対象としていた訪問介護について、介護保険の被保険者にも適用を拡大した。

埼玉回生病院	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムを推進するために、高齢者が住み慣れた地域や自宅で日常生活を送ることができるように、地域内の医療機関と介護事業所が連携し、効率よくサポートできる体制を段階的に進めている。 ・八潮市地域包括支援センター運営会議に職員を派遣し、医療、保健、福祉の各関係機関との連携がスムーズに運用できるように関係調整を図っている。 ・当院においては、居宅介護支援事業所や通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、訪問診療、訪問薬剤等の訪問系事業所併設という特徴を活かし、円滑に医療から介護への移行支援が可能となっている。また、居宅介護支援事業所は、24時間の支援相談体制を整えている。 ・地域ケア推進会議―地域包括支援センター職員及び市職員が集まり、各議題について検討すると共に、情報の共有化を行う会議に出席した。 ・専門職種別会議―保健師、主任介護支援専門員、社会福祉士の3職種が各専門性を活かした活動を実施するための専門職会議に参加した。 ・自立支援型地域ケア会議―理学療法士、作業療法士、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士等が参加する自立支援型地域ケア会議に参加した。
草加市立病院	<p>各病棟に退院支援看護師を配置し、地域や医療・介護における関係機関へ適時適切に連絡を行っている。そして退院時には関係機関へ看護サマリーを送付している。</p> <p>草加市在宅医療・介護連携推進協議会の委員として、会議に参加している。議題内容としては、在宅医療・介護連携推進事業における課題と対策、在宅療養リーフレット作成について等である。</p> <p>草加市在宅医療・介護多機関共同研修会に参加した。</p>
春日部市	<p>【介護保険課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療・介護関係者を対象にオンラインで「春日部市医療介護職連携研修・交流会」を開催した。 実施日（参加者数）：11月10日（463人） ・春日部市在宅サービス多職種連絡協議会出席者を対象にアドバンスケアプランニングについての研修会を開催した。 実施日（参加者数）：2月19日（23人） ・春日部市在宅サービス多職種連絡協議会出席者を対象に春日部市在宅緩和ケア地域連携推進会議兼研修会を開催した。 実施日（参加者数）：3月16日（28人） ・春日部市地域包括ケアシステム推進センターにて、医療・介護関係者、地域包括支援センター等への相談支援及び情報提供を実施した。（相談件数：46件） ・地域の医療・介護関係者が参画する「春日部市在宅サービス多職種連絡協議会」を開催した。 計11回 281人 ・介護関係者を対象にオンラインで「春日部市介護事業部門連携研修・交流会」（全体）を開催した。 実施日（参加者数）：実施日（参加者数）：8月19日（241人）
草加市	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療・介護多職種協働研修会 オンライン研修会 10/20～10/27、11/9～11/24 医療・介護関係者 117回視聴 ・草加八潮医師会に委託し、「在宅医療サポートセンター」を在宅医療連携拠点として設置している。 ・医療機関・介護事業所の情報を記載した「草加市在宅医療・介護連携ガイド」を作成し、医療・介護従事者に向け配布した。 ・「在宅医療サポートセンター」において、在宅医療・介護に関する相談支援を行った。（相談件数：333件） ・MCS（ICTを使用した情報連携ツール）実務者研修会を実施 8/26 ・草加市在宅医療・介護連携推進協議会を設置し、1回会議を開催した。（1210）

越谷市	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度の介護保険法改正により、在宅医療・介護連携推進事業は市町村が主体的に取り組む事業として位置付けられ、本市では平成30年度から国が定める8つの事業（下記ア～ク）全てを所管し実施している。 （ア）地域の医療・介護の資源の把握 （イ）在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討 （ウ）切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進 （エ）医療・介護関係者の情報共有の支援 （オ）在宅医療・介護連携に関する相談支援 （カ）医療・介護関係者の研修 （キ）地域住民への普及啓発 （ク）在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携 ・上記（ア）～（キ）の事業を越谷市医師会に委託しており、医師会内に設置された「越谷市医療と介護の連携窓口」が在宅医療連携拠点として事業を実施した。 ・関係者が情報共有するための広報誌「医療と介護の連携窓口便り」を毎月発行した。 ・越谷市医療と介護の連携窓口が医療・介護関係者からの相談窓口となり、電話・メール等の相談を265件受け付けた。 ・医療関係者、介護関係者、学識経験者等16名で構成された「越谷市地域包括ケア推進協議会」を1回開催し、在宅医療・介護連携推進や、認知症施策の推進について審議した。（実施日：8月27日） ・多職種が参加する研修会を5回開催し、250人が参加した。 （オンライン研修と合わせると、15回・569人が参加した） ・お昼の時間を利用し、オンラインを利用した研修を毎月実施した。（10回開催、計319人が参加）
八潮市	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療・介護連携に関する現状把握や課題抽出のため、医療・介護等の関係機関を構成員とする在宅医療・介護連携推進会議を開催した。（第1回会議：6月26日、参加者14名、第2回会議：9月25日、参加者13名、第3回会議：3月26日、参加者14名） ・在宅医療サポートセンターを相談窓口として、市民および地域の医療・介護関係者（地域包括支援センター・ケアマネジャー等）からの医療相談に対応。 ・退院時等の医療と介護の連携調整や在宅医療を希望する患者を往診医につなぐなどの対応。（相談件数：146件） ・在宅医療サポートセンターによるMCSの登録作業やホームページ等による啓発活動の実施。 ・「医療と介護連携連絡表」の見直し、活用の促進PRの実施。 ・事業者向けの医療・介護資源リストを更新し、市内の医療機関・薬局・介護サービス事業所等に配布。 ・関係機関の連携および情報共有を図るため、草加市八潮市合同で多職種研修会の実施。（配信期間：令和2年10月20日（火）～11月24日（水） 視聴回数：643回） ・令和2年7月30日 草加保健所による入退院支援ルールに関する意見交換会に出席。
三郷市	<ul style="list-style-type: none"> ・退院調整ルールを作成、配布。 ・ACP、ターミナルケアに関する講演会を年2回開催。（主体：医師会） ・三郷市在宅医療介護連携サポートセンターを三郷市医師会に委託。 ・介護保険の認定申請窓口にて、三郷市在宅医療介護連携サポートセンターの案内チラシを配布。 ・MCSの積極的な活用を促進するために、連携拠点による事業所へ活用状況のアンケート調査を実施。個別に活用方法等を説明。 ・市民向けに介護保険に関する内容をのせた介護の絵本を作成。市内の小中学校や公共機関に絵本を配布。 ・三郷市在宅医療介護連携推進協議会を年3回開催。（主体：市） ・多職種研修会を年1回開催。（主体：市）
松伏町	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度に医療介護資源情報提供システムを開発し、運用を実施している。 ・在宅医療連携拠点において、療養支援ベッドの確保・往診医及び患者登録を継続的に実施した。 ・在宅医療連携拠点「吉川松伏在宅医療サポートセンター」の運営を地域支援事業として平成30年度から医師会に業務委託を実施している。 ・平成30年度に医療介護関係者と行政が情報共有するためのシステムを開発し、運用を実施している。 ・埼玉県医師会が開発した医療介護専門SNS（Medical Care Station）の普及啓発に努めた。 ・医師会と行政が中心となって組織する「多職種連携の会」及び吉川松伏在宅医療サポートセンター主催の研修会を5/22に実施した。 ・毎年会議を隔月で行っている。（令和2年度はコロナ対応で実施できなかった。）
草加保健所	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、埼玉県東部地域保健医療・地域医療構想協議会在宅医療部会 草加・八潮・三郷・吉川部会を実施している。（令和2年度はコロナ対応で実施できず。）

⑤ 人材不足

実施主体	内容
松伏町	・保健センターにおいて、看護系大学の地域看護学臨地実習受け入れに協力している。
春日部保健所	・看護系大学の臨地実習受け入れに協力している。